

河井寛次郎と島根の民藝

— 手がつくる、親しいかたち —

島根県立石見美術館

2021/9/11 (土) ~ 11/1 (月)



河井寛次郎《三色扁壺》
昭和37年(1962)
島根県立美術館蔵

焼き物ファン、民藝ファン必見!

島根県安来市出身の陶芸家、河井寛次郎の回顧展を開催。

合わせて、島根の民藝運動や手仕事についても紹介。出品総数約150点。

大正から昭和にかけて活躍した陶芸家・河井寛次郎(1890~1966)は、島根県安来市出身です。大工棟梁の次男として生まれ、松江中学校卒業後、東京高等工業学校(現・東京工業大学)の窯業科に進学しました。同校では陶芸家の濱田庄司と出会っています。卒業後は京都市立陶磁器試験場に勤務し、独立。大正9年(1920)京都五条坂の清水六兵衛の窯を譲り受け、作陶を本格的に始動すると、中国や朝鮮などの古陶磁研究をもとに高度な技術を駆使した作品を発表し、「天才は彗星の如く突然現る」と高く評価されました。その後、濱田庄司を通じて柳宗悦(思想家・宗教哲学者)と交流を持つと、作風は実用を意識した力強いものへと変わります。戦後は実用にも、既存の焼き物の形にもとらわれない、自由で創造的な河井独自の作品を制作しました。

また河井は、柳や濱田とともに「民藝運動」を興したことで知られます。下手物と称され評価の低かった民衆の手による工芸品に美を見出し、民衆的工芸と呼び略して「民藝」という新語を作りました。大正15年(1926)には河井、柳、濱田、富本憲吉の連名で『日本民藝美術館設立趣意書』を印刷配布し、民藝運動を開始します。島根では、河井と松江中学の同窓で松江商工会議所に勤めていた太田直行の働きかけにより、柳を招き行われた民藝調査「島根工藝診察」から民藝運動が始まりました。座談会や、河井や柳の蒐集品の展示なども開かれ、雑誌『工藝10号』では、「日本中で山陰程、澆刺と民藝の運動が興っている所はない」と柳に紹介されています。

本展では、河井の初期から晩年までの仕事を島根県立美術館(松江市)のコレクションからたどります。合わせて、民藝運動で柳らが取り上げた島根の登窯の風景や焼き物など、島根の民藝についてもご紹介します。

【開館時間】9:30~18:00(入館は17:30まで)

【休館日】毎週火曜日

【主催】島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、山陰中央新報社、TSKさんいん中央テレビ

【特別協力】島根県立美術館

【後援】芸術文化とふれあう協議会

【問い合わせ】島根県立石見美術館 〒698-0022 島根県益田市有明町5-15

島根県芸術文化センター「Grantow」内

TEL:0856-31-1860、FAX:0856-31-1884 <http://www.grandtoit.jp>

担当:田原(たばら/広報)、吉岡(よしおか/広報)、角野(すみの/学芸)、南目(なんもく/学芸)

河井寛次郎の作品は前期、中期、後期の3期に分かれます。
様々な制作技法を駆使した作風の多彩さを楽しもう!

▼前期
古陶磁研究に基づく



河井寛次郎《青磁花瓶》
大正12年(1923)頃
島根県立美術館蔵

▼中期
民藝に傾倒する



河井寛次郎《白地草花絵扁壺》
昭和14年(1939)
島根県立美術館蔵

▼後期
自由な造形へ



河井寛次郎《三色扁壺》
昭和38年(1963)頃
島根県立美術館蔵

▼河井寛次郎の
拓本も展示

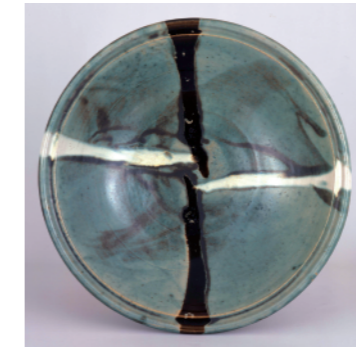


「此世このまま大調和」
河井寛次郎《拓本集 火の誓い》
昭和46年(1971)
島根県立美術館蔵

河井寛次郎の他、バーナード・リーチ、濱田庄司、棟方志功、芹沢銈介など、
民藝運動を全国に推進した「民藝作家」たちの作品も味わおう!



バーナード・リーチ
《ガレナ釉筒描グリフォン図大皿》
昭和27年(1952)頃
島根県立美術館蔵



濱田庄司
《青釉十字掛盛鉢》
昭和30年(1955)頃
島根県立美術館蔵



濱田庄司
《柿釉赤絵角鉢》
昭和47年(1972)頃
島根県立美術館蔵



芹沢銈介
《小川紙漉村文着物》
昭和18年(1943)頃
個人蔵

益田の「喜阿弥焼」、石見地域の「石見焼」、出雲地域の「日の出団扇」など、
民藝として評価された島根の手仕事に親しもう!

昭和6年(1931)に、民藝運動の父・柳宗悦は、島根の津和野から安来までをめぐり、民藝調査・「島根工藝診察」を行いました。そして、現益田市喜阿弥町の「喜阿弥焼」、石見地域の「石見焼」や登り窯、出雲地域の「日の出団扇」など、島根の様々な手仕事に民藝としての価値を見出し、それらの魅力を全国に紹介しました。



《喜阿弥焼 小土瓶》
江戸時代末期~昭和時代(19~20世紀)
出雲民藝館蔵